

エクストリームシリーズ2012 那珂川大会

那珂川大会優勝チームコメント

とれいるざんまい 近藤 みどり さん

とれいるざんまいで杉ちゃん、久保田さんという贅沢なメンバーに光栄にも3回目に加えていただきました。

今回は日曜の早朝5時よりブリーフィングだったので、殆どのチームが前泊して那須烏山の自然を満喫してからの参戦だったと思います。町の方々のご好意で集会所をお借りでき、トレイルざんまい、チームコナウィン、渋谷冒険王などなど、20名弱で泊まらせて頂きました。とても快適に過ごせたばかりか、居心地が良すぎて、これってレース後の交流会!?並みに話やお酒が進みました。翌日は3時半起き、まだ暗い中準備開始。ワクワク。

まずはチームチャレンジからのスタートです。幻想的な朝靄の中、参加者は横一列に並んで、ぼんやり見えるスタッフを目指して小学生の徒競走!?みたいにダッシュ!スタッフの方がばら撒いたクイズを拾ってスタート地点に戻り、栃木に関する問題に答えませう。間違えたら・・・。再ダッシュ! はずれを引いたら・・・。再ダッシュ。

我がチームは幸先よく一発でクリアし、最初のラン、カヤック部門までは1位通過、バイクを担いでCP4へ向かいます。急坂、藪こぎ、屈強な男性陣は木に絡まったりして遅れている私を助けに、何度も戻ってバイクを受け取りワシワシ登って行きます。多謝多謝。そこではちょっと西の方の神様に呼ばれてしまったようでタイムロスし、CP6では1位に30分近く差をつけられています。

しかし決して諦めない私達、1分1秒でも早く追いつこうと常に全力で前へ前へ進みます。トレッキングセクションでは各チーム入り乱れ、探りあいの展開となりました。かなりショートカットしたと思われたCPでも既にカードが入っていて・・・。更に燃えた～!颯爽と進むお二人を追いかけ、崖は獣のように登り、お尻で滑り降り、アドを満喫できました。

おおっ～!!CP13では1位に返り咲き、最後のバイクセクションへ突入です。お二人には、「あと登りは200m」、「峠は2つ、」等、タイミングよく私を精神面で励まして頂き、肉体的には文字通り背中を押してもらい(しかも両サイドから)ました。私は頭もかなりハイになり、「腹筋はまだまだイケますから腹で漕ぎます。」など口走りながらもチームワークに支えられ、自分の実力以上の力を出せました。

そして感動のゴール。顔から転んだりしたので泥だらけだったから、涙ぼろぼろはばれなかったようです。春先から体力落ちていて絶不調でした。いよいよ年貢の納め時かと思っていたので、何とかいけてとってもとっても嬉しかったです。

「最後まで諦めず、気を緩めず、久しぶりに良いレース展開を楽しめ、いい勝ち方ができた。」とはお二人のコメント。

梅、桜、こぶしの花を愛でながら那須烏山の自然を満喫できて、苦しみつつも楽しいレースができました。カヤックで冷えた体を暖めるすいとん、トレッキングで大汗をかいて奪われた塩分を補う冷たいお蕎麦をふるまい、応援して下さった地元の方々、早朝スタートをサポートしていただいたスタッフの皆様、顔が死んでるところに現れ、笑顔を引き出ししていただいたカメラパーソン様、ありがとうございました。

那珂川大会参加チーム（体験コース）コメント

あっくん&パパ 大久保 慎 さん

MTBを持って、山や川の決められたチェックポイントを通って行くという、アドベンチャーレースの体験版(体験版はカヤックとランのみ)に前日夜から、長男・アツ(小学校2年生になりたて)と参加。前日夜は23時までベテランの参加者たちと飲み会。

そしてレース本番。他の体験レース参加者が全員大人ということもあり、15キロの長丁場なんでもうちはとにかく完走を目標に置いてスタート。なにせ長丁場だから、親子間で感情的な激突もあるだろうけど、最後まで二人で走ろうと個人的には決めておりました。

チェックポイント1のカヤック体験で2位スタートと好調な滑り出しができたにもかかわらず、少し進んだところで、アツが腹が痛いと言い出し、いきなりのトイレ休憩。この間にあれよあれよとびり(7位)に躍り出る。出てきたところ、めっちゃテンションが低い。。。どういふ痛みなのか確認すると横っ腹が痛いという事で、急に運動した時の腹痛と勝手に自分が判定。なんとか動いてもらうよう叱咤したり激励したりしてチェックポイント2まで何とか歩かす。

そして到着したチェックポイント2では、地元のおばあちゃん方がすいとんを振る舞ってくれるも、アツはしゃがみこんだまま。すいとんも食わず、肉を一口だけ食べさせたら、いきなり嘔吐!全身がゲロまみれ。これにはスタッフの皆さん含めびっくり。

その場にいたスタッフの皆さんに応急処置をしてもらっても、グロくさい状態でこれはもうギブアップかとおもいきや、少し楽になったので続けると。

嫁に報告すると、弟と妹も同じ症状(胃腸炎で高熱・腹痛・下痢・嘔吐)という事で、リタイヤさせたほうが良いという事だったけど、本人が続けるというのでまあ様子を見ることにした。チェックポイント間の所要時間は40分くらいあるわけだが。。。で、今度はチェックポイント3から6の、山中コースへ。山中といっても、山道ではなく半分以上が道ではない、山の斜面そのもの。雨上がりということもあり、コンディションはかなり過酷。スタッフの方が体験コース参加者用に貼ってくれた目印テープをヒントに地図を見ながら何とか進む。ただ、アツは時々腹痛がぶり返すらしく15分おきに、60秒休むというのを繰り返す。だいぶ辛そうだ。なんとかチェックポイント4まで進んだところで、6位・5位・4位の人たちに追いつき、ほぼ同着でチェックポイント5を制覇。最後のチェックポイントに皆で向かう。

しかしここで妙な事が。スタッフの人が走ってきて、4位のチームが話しかける。「何をしてるんですか?」「目印のテープを貼ってるんです」そうやってスタッフの人は二股の道を下っていった。ところがそれを聞いた他チームはその発言を深読みして、スタッフの人とは反対の方向を登って行ってしまった。そして他のチームの人達もつられてそっちに歩いて行ってしまふ。確かに地図上も方角上もそちらの方が正しそうだ。

しかし地図的になんか変に思い、焦るアツに急かされながらも地図とコンパスを凝視して、あらゆる方向から考えまくること3分。地図に一箇所だけ、さりげなくボールペンで線が引いてあったのを決め手に、スタッフの人が走っていった方向に賭けることにした。

結果的にはこれが大正解で、他の人達はその後急斜面に遭遇し、無理やり進むか戻らざるを得ず大幅タイムロス。我々はその間にチェックポイント6に達し、一気に2位に浮上。

チェックポイント6のあとに続く、ゴール地点まで戻る川沿いの平坦な道を、引き続き、腹痛の休憩を取りながら早歩きする。ゴールまで、距離にして4キロほど。しかしこまめに休憩していると、とうとう後続のチームが視界に!しかもランニング系の格好をしていて早そう、ヤバイ!焦って走り始めるも、開始から約4時間がたち、アツの体力は限界。思わず「おんぶしてやるうか?(しまった、ここでそれ言ったらまずいか)」「うん、おんぶして」「・・・でも、おんぶしてもらっての2位と、おんぶしてもらわない3位なら、おんぶしてもらわないほうがカッコイイよ」「じゃあ走る」ここで後続チームに完全に追いつかれたが、怒涛の手つなぎ早歩きで再度引き離すことに成功。最後は激しい泥道や茂みの中を、ほぼ無理やり引きずるように手つなぎジョギング。ぬかるみに靴を取られそうになり、しげみに足をとられ倒れてズボンも破けたり、と散々なアツは「手を離して!」とほぼ半泣きで連呼してたが、「手を離したらおしまいだよ!あとちょっと!ほらゴールがみえた!」と(何度目かに)いうと、気力が復活して急に駆け出し、後続もその頃には追いつくことを諦めていて、なんとか2位ゴールイン。開始から4時間半のこと。

その後の表彰式で、1位チームが最後のクイズの答えを間違えて、我々が1位になった事をしたのでした。嬉しかった〜。若干自分が無理やりな感もなきにしもあらずだったが、それでも吐くほどの体調不良をこらえて、最後まで気合と勝利への執念で走りぬいたアツの姿に、成長を実感。。。今までだったら泣きが入っておかしくない局面が何度もあったけど、一度も泣かなかった。賞品として、Solomonのお揃いのフード付き帽子をゲット。また出たい!